

液晶絵画

STILL/MOTION TIE L / MOTION

森村泰昌
やなぎみわ
千住博
鷹野隆大
小島千雪
ブライアン・イーノ
ジュリアン・オビー
サム・テイラー＝ウッド
イヴ・サスマン
ヤン・フードン
チウ・アンション
ドミニク・レイマン
ミロスワフ・パウカ
ビル・ヴィオラ



2008/08/23/SAT—10/13/MON

東京都写真美術館 B1・2F 展示室
恵比寿ガーデンプレイス内

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY
■開館時間：午前10時—午後6時（本・金は午後8時まで（入館は閉館の30分前まで）） ■休館日：毎週月曜日（休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日） ■観覧料：一般1000（800）円
大学生800（640）円・中学生、65歳以上600（480）円 ■（ ）は20名以上の団体料金 障害をお持ちの方とその介護者は無料 第3水曜日は65歳以上無料
■主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館・朝日新聞社 ■特別協力：シャープ株式会社 ■協力：ホース株式会社・エプソン販売株式会社
森村泰昌「フェルメール研究（振り向き絵画）」2008年 © Morimura Yasumasa, courtesy of MEM



液晶絵画 STILL/MOTION TIE

近年、液晶ディスプレイをはじめとする映像環境は飛躍的な技術的發展をとげており、以前では考えられなかったような高精細の画面を実現しています。本展はそうした状況を背景に、ビデオによる表現の新たな可能性を切り開きつつある、日本、中国、欧米の作家14名の作品を紹介するものです。

それらに共通する特色は映像表現の中に絵画的な世界の効果を生かしているというところにあります。動くイメージに、これまでは静止した画面に固有のものと思われていた表現の豊かさを取り込んで見せているといってもよいでしょう。

屏風状に配した液晶ディスプレイの中で山水が微かな動きを宿す作品（千住博）、フェルメールをテーマとした展示空間によって、タブローの世界と映像の世界とを往来する試み（森村泰昌）、スローモーションで動く絵画的な美しい画面と音楽とを精妙にシンクロさせた作品（ブライアン・イーノ）、水墨の技法によるアニメーション作品（チウ・アンション）などのユニークな試みは、私たちに液晶絵画と呼ぶべき今日的な映像表現の一局面を堪能させてくれるに違いありません。

■カフェ&ギャラリートーク：8月23日（土）午後4時30分より
ドミニク・レイマン（出品作家）〈通訳つき〉
場所：2階カフェ・シャンブルクレール／料金：1500円（事前申込制・定員35名）
電子メールまたはFAXで、申込者の氏名、連絡先（FAXの場合はFAX番号）をご記入の上、お申し込みください。
（メールアドレス）workshop@syabi.com （FAX）03-3280-0033
■講演会：9月20日（土）午後2時より
講師：建畠哲（国立国際美術館館長）、品中実（ICC主任学芸員）
場所：1階 創作室／定員：50名（観覧会半券をお持ちの方に午前10時より整理券配布）

■アーティスト・ギャラリートーク
9月12日（金）：小島千雪、鷹野隆大（出品作家）
9月26日（金）：やなぎみわ（出品作家）
場所：2階展示室、地下1階展示室、各日午後2時より
■担当学芸員によるフロアレクチャー
10月10日（金）午後2時より



東京都写真美術館 Tokyo Metropolitan Museum of Photography
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 TEL 03-3280-0099 URL: http://www.syabi.com
JR恵比寿駅東口改札より徒歩7分・東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分
当館には専用の駐車場はありません。お車でのご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

